

プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

フィリピン共和国 レイテ地域開発プログラム(PHL-196206)



災害対策活動のリーダーとして活動するアンジェリート君(12歳)

チャイルドストーリー

台風ハイヤンで被災した経験から、 災害対策について学びました

レイテ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域は、2013年11月に発生した超大型台風30号(ハイヤン)により甚大な被害を受けました。ワールド・ビジョン(以下、WV)は復興支援とともに、今後の災害に備え、被害を最小限にするための活動を地域の人々とともにしています。

レイテADPの支援地域に住むアンジェリート君は、この災害対策活動に子どものリーダーとして参加しています。アンジェリート君の家族も、台風30号により大きな被害を受けました。両親は、以前はココナッツ農家を営むかたわら、酒やお菓子を作って販売し、経済的に安定した暮らしをしていました。しかし、台風で収入源だったココヤシの木は倒れてしまいました。現在父親は大工として働いていますが、収入は少なく生活は厳しいと言います。「台風が村を直撃し、両親が大変苦労したのを見てきました。勉強を頑張って、将来は家族を助けられるようになります」と語るアンジェリート君。一生懸命勉強しながら、ADPの災害対策活動で、災害への備えや被害を軽減



マニラで行われた「ASEAN災害管理の日」会議で自分たちの活動について発表しました

する方法を学び、2014年秋にはマニラで開催された「ASEAN災害管理の日」会議で自らの経験や学んだことを発表しました。

学んだことは、その後実際に台風ハグピートとチャンミー襲来の時に生かされました。アンジェリート君は訓練通りに家族を手伝い、緊急キットを準備し、避難所に逃げ、家族と地域は台風の被害を免れることができました。

2013年11月8日、超大型の台風30号（ハイヤン）によりレイテADPの支援地域は大きく被災しました。そのため2014年度は当初の計画を変更し、主に①シェルター支援、②子どもたちへの学習支援、③生計向上の3分野で活動しました。

シェルター支援

家屋が損壊／全壊した世帯を支援しました

台風により家屋が損壊した489世帯に修復に必要な資材を提供し、自分たちで協力しながら家屋を修復できるよう、政府の協力を得て家屋建設のトレーニングを実施。各地域の代表者23人が参加しました。また家屋が全壊した世帯のう

ち、特に弱い立場（特に収入が低い世帯、片親や子ども世帯、5歳以下の子どもや高齢者がいる世帯など）にある18世帯に、より強度の高い家屋を支援しました。



強度の高い家屋の建設方法についてのトレーニング



489世帯に資材を提供、**18世帯**に家屋を支援

子どもたちへの学習支援

台風の約1カ月後に学校は再開。しかし、新たな課題も生まれています

支援地域内の多くの学校が、校舎の損壊などの被害を受けました。子どもたちが少しでも安心して学校生活を送れるよう、ADPでは幼稚園～高校生子どもたち1,910人に学用品を支給し、教師36人に教材を支給しました。特に教材支援については、「行政機関からは教師に対する支援がないので、とてもありがたい」という声が寄せられました。しかし一部地域では、台風被害の大きい市中心部からの移住にともない子どもたちの人数も急増しています。学校の定員をオーバーしているため入学できない子どもたちもいるなど、新たな課題も生まれています。



学用品の支給を受ける子どもたち



子どもたち **1,910人**に学用品を支給

台風30号による被災後、WVは支援計画を見直し、2014～15年の2年間を復旧期間と位置づけて支援を実施しています

生計向上

台風前から実施していた貯蓄・融資組合 (CoMSCA) の活動を継続しました

CoMSCAは地域の有志メンバー十数人で構成され、週に1度集まり、それぞれが少額を出し合いグループとして貯金し、そこから家族の必需品(例.子どもの教育費や食料、薬など)の購入や非常事態(例.家族の死亡)が発生した際に、低利で融資を受けることができます。2014年度は13グループに161人が参加しました。CoMSCAはメンバー個人にとっての経済的な支援になるだけでなく、コミュニティ全体としての回復力の底上げにつながります。



CoMSCA では子どもたちにも貯金の重要性を教える活動を行っています

\$ 13グループに161人が参加



支援地域の女性のストーリー

地域の子どもの健康改善のために働いています

メラニーさんは小さい頃から、困っている人を助ける仕事をしたいという夢を持っていました。しかし、経済的な理由でソーシャル・ワーカーの資格を取るための勉強ができず、その後稲作を営む夫と結婚し、夢をあきらめて子育てに専念していました。その後、年に1度の収穫時しか収入がない夫を助けるために仕事を探し、地方政府で保健担当者の募集があることを知ったメラニーさんは、忘れかけていた夢を取り戻しました。見事採用され、今は地域の人々に保健に関するアドバイスをしたり、地域の弱い立場の人々の栄養状態を確認したり、新生児がいる家庭を訪問してちゃんと母乳を飲んでいるか確認したりする仕事をしています。病院が遠いこの地域の人々にとって、保健や栄養に関する知識を持つメラニーさんは頼りになる存在です。

メラニーさんと夫は、ADPの家庭菜園に関する研修を受ける機会を得ました。学んだことを生かして野菜を育て、収穫した野菜で栄養ある食事を作り、地域の母親たちにも栄養ある食事の重要性を教えています。「WVとともに、

栄養不良の子どもがいない地域を目指して私も頑張りたいです」とメラニーさんは笑顔で話してくれました。



3人の子どもを育てながら働くメラニーさん (35歳)



Q.どのような仕事をしていますか。

チャイルドやその家族の情報に関するデータベース管理、チャイルド・スポンサーからの手紙の記録入力、クリスマスカードや成長報告の作成、チャイルドの成長支援などを担当しています。



地域の人々と話すレイテADPスタッフ
ジャニス・モンテデラモス(写真右、43歳)

Q.2014年の活動で大変だったことは何ですか。

台風ハイヤンが支援地域を直撃し、大きな被害を受けたことです。これにより当初計画されていた活動に大幅な変更や遅れが生まれました。現在私を含めて3人という少ないスタッフでこの状況を乗り切るのは大変困難でした。

Q.WVで働く原動力となっているものは何ですか。

地域で得た友人やWVのスタッフと良い人間関係を築きながら、地域の人々のために働く機会に恵まれたことに感謝しています。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

台風の直撃後ライフラインが寸断された中、日頃からチャイルドのモニタリングを行っている住民ボランティアの協力により、迅速にチャイルドの安否を確認することができ、チャイルド・スポンサーとの文通も再開することができました。



子どもの集会で正しい価値観について学んだ子どもたち

会計報告

PHL-196206

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

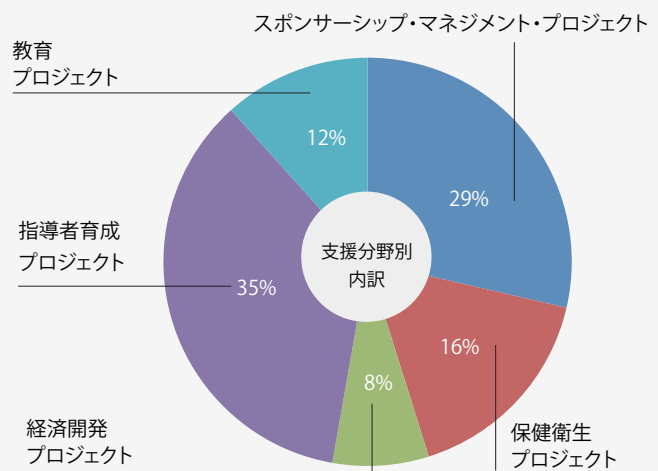
プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	16,331,238
当期支援額	16,331,238
前期繰越金	8,951,387
プログラム支援額合計	25,282,625

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネージメント・プロジェクト	7,294,799
保健衛生プロジェクト	4,218,053
経済開発プロジェクト	1,940,192
指導者育成プロジェクト	9,069,999
教育プロジェクト	2,972,036

プログラム支出額合計	25,495,079
次期繰越額	-212,454



2013年11月に発生した台風30号により、レイテADPの支援地域も大きな被害を受けました。そのため、特に緊急に支援が必要な、「シェルター支援」、「子どもたちへの学習支援」、「生計向上」の3つの活動を行いました。しかし、年度途中で被災したため、当初の予算区分通り会計の記録を行いました。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 **ワールド・ビジョン・ジャパン**
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30～17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp